

八代には語り継ぎたい

やつしろの雛祭り—ひと味違う大人の鑑賞法

旧八代城主松井家の屋敷「松浜軒」では、雛祭りの季節、江戸時代から伝わる雛人形が飾られます。松井家伝来の雛人形は、可憐さと気品を兼ね備えた「京風古今雛」。京都の職人が手がけた伝統美をご堪能いただけます。

一方、本町商店街や日奈久温泉街では、各家自慢の雛人形が店先や特設会場にならびます。近年の雛祭りは、年中行事の枠を超え、地域おこしのアイテムとしても脚光を浴びています。伝統というものは、時代とともに

ともに姿や目的を変えて受け継がれてゆくものなのでしょう。

雛人形には、各時代の美男美女の理想の姿が投影されています。その違いがわかると、人形への興味もぐっと深まります。例えば商店街で見かける昭和の雛人形。伝統的な和装姿なのに、化粧の違いでしょうか、西洋人の面影が漂います。日奈久温泉で目にする明治の雛人形は、江戸時代の雛とも昭和の雛とも違う、日本人らしい穏やかな表情が見てとれます。



松浜軒のなまこ壁

京都の人形作家・大木平蔵の作。まるで生きているかのような表情は、明治に流行した生人形の美学にも通じる!

古今雛 明治23年(1890年) 大木平蔵作
日奈久ひらやホテル所蔵

重ねが美しい「享保雛」や豪華な刺繍が目を引く「古今雛」、浮世絵から抜け出したような美男美女に目を奪われます。



松井家十代章之公と琴姫の間に生まれた「加屋姫」所用の古今雛。浮世絵と同じで目口が小さく引き締まった美人顔。

古今雛 天保11年(1840年)
松井文庫所蔵

雛祭りブームの昨今、巷では雛人形の「数」を競い「賑わい」を楽しむ傾向が強くなってきました。しかし、八代でお薦めしたいのは、雛ひとりひとりの表情をじっくり味わい、その違いを楽しむ大人の鑑賞法。江戸時代から明治・大正・昭和まで、各時代の雛人形が揃う八代だからこそできる、贅沢な雛祭りなのです。

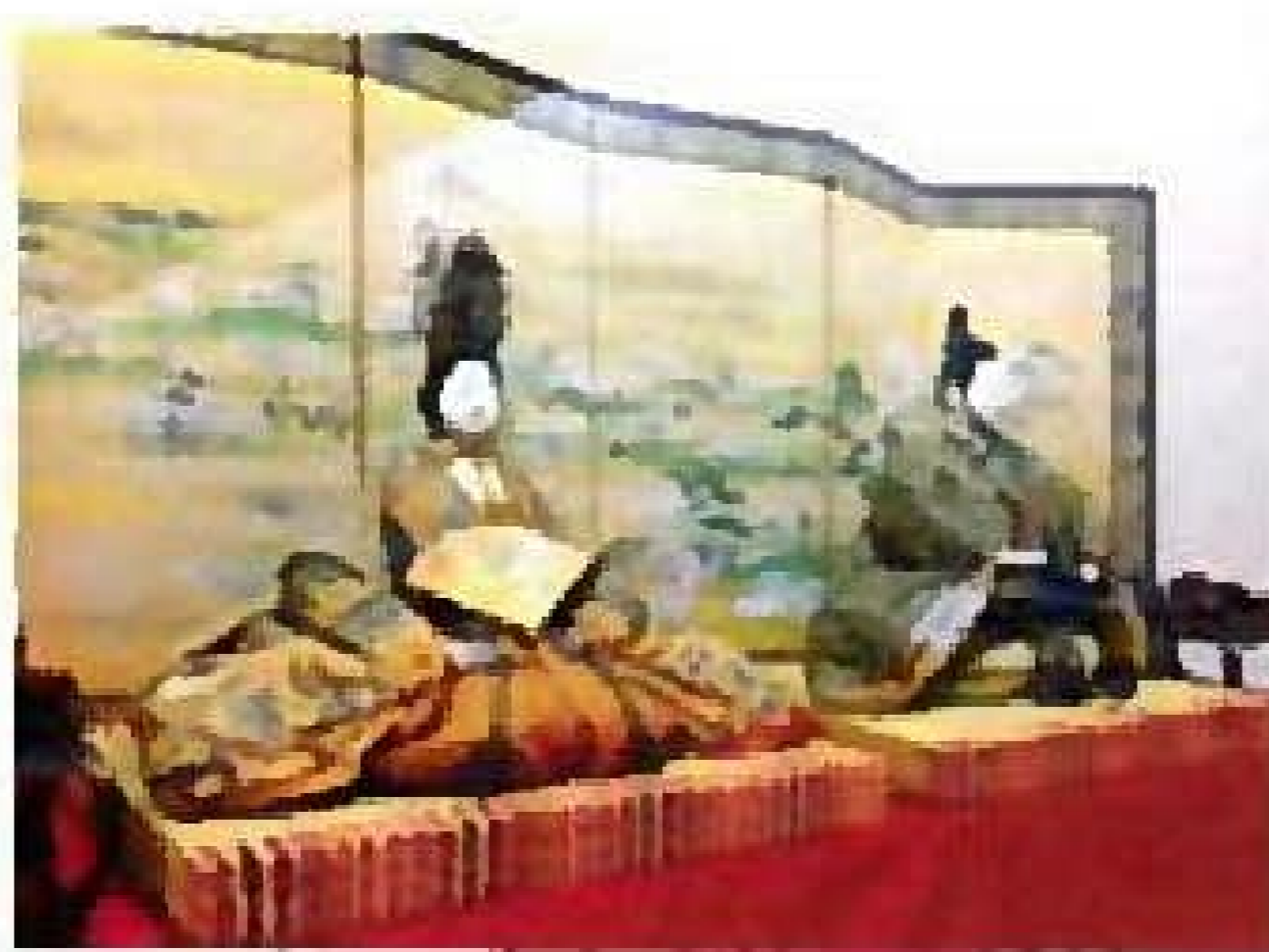
琴姫のお雛さま
天保10年(1839)
松井文庫所蔵

雛がある

展覧会情報

■国指定名勝 松浜軒「企画展示」 「松井家の雛祭り」

- 会期 平成28年2月6日(土)～3月21日(月)
- 会場 松浜軒(松井文庫展示場)
- 開園時間 9時～17時まで
(入園は16時30分まで)
- 休園日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)
- 入園料
大人・高校生500円
小中学生250円 幼児無料
- 問合せ先 松浜軒
八代市北の丸町3-15
TEL 0965(33)0171



■八代市立博物館未来の森ミュージアム「企画展示」 「お姫さまの婚礼道具」

- 会期 平成28年1月26日(火)～3月13日(日)
- 会場 八代市立博物館(第二常設展示室)
- 開館時間 9時～17時まで(入館は16時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)
- 入館料
2月11日まで
大人300円 高大生200円
2月12日以降(特別展料金)
大人400円 高大生300円
※いずれの期間も中学生以下無料
- 問合せ先 八代市立博物館
八代市西松江城町12-35
TEL 0965(34)50005

